



広報かどま

CITY OF KADOMA

平成28年(2016) 10月号
No. 1181
(毎月1日発行)

子ども議会	2
選挙啓発標語を募集	4
ファミサポ交流会	5
B型肝炎ワクチンの定期接種	6
第70回読書週間	9

門真市役所 / 〒571-8585門真市中町1番1号 ☎06(6902)1231 ☎072(885)1231
編集と発行 / 総合政策部秘書広報課 ホームページ <http://www.city.kadoma.osaka.jp/>
配布に関する問い合わせ ☎0120(934)571 広報かどまは「門真市シルバー人材センター」が全戸に配布しています

人口12万5055人(男6万1756人、女6万3299人) 世帯数6万1641世帯
転入435人 転出409人 出生83人 死亡105人
(28年9月1日現在 転入・出などは28年8月中の数字)



地域の連携と
にぎわい

生きがいがある
暮らしの実現

教育・保育
環境の整備

宮本市長が所信を表明 わがまち 門真を 誇りと愛着が持てる魅力あるまちへ

9月7日、平成28年門真市議会第3回定例会が開会し、宮本一孝市長が所信を表明しました。市長として、市民の皆さんの期待に応えることを誓うとともに、任期である4年間で取り組む政策について述べました。結びには、「このまちを市民の皆さまが誇りと愛着の持てるまちへと変えてまいりたいと覚悟であります。」と述べ、市政に取り組む決意を新たにしました。

都市再生の
推進

風通しの良い
組織風土へ

所信表明(一部抜粋)

誰もが理解・納得できる市役所へ

市民目線で常に物事を考えることは当然ですが、組織的に仕事を進める上で、市のめざす方向をしっかりと共有しながら、なんでも議論できる風通しの良い組織風土を作り上げるとともに、政策を決めていく過程におきましては、政治的な中立性・公平性を徹底し、透明化することで分かりやすくするなど、誰もが理解・納得いただける市役所としてまいります。

また、お役所言葉をやめ、役所が変われば、必ず門真は変わります。

子どもへの施策の充実へ

未来を担う子どもたちへの施策として、まずは、あらゆる手法を最大限活用し、待機児童ゼロを早期に実現いたします。

とりわけ、幼児教育や保育の無償化ならびに子ども医療費助成を高校生(18歳)までに拡大することにつきまして、早期に導入できるように具体的な検討を進めてまいります。

次に、就学前の教育、保育と小学校との連携を強化し、中学校まで切れ目のない一貫した教育を実現するとともに、しっかりとした教育目標を立て、学校・家庭・地域が一丸となり、小中学生の学力向上をめざします。

生きがいのある暮らしの実現へ

市民の皆様の健康寿命を延ばし、生きがいのある暮らしを応援するとともに、高齢者・障がい者を支える施策を充実させ、温もりのあるまちをめざしてまいります。

団塊世代の皆様が、本格的に高齢化を迎える中で、健康増進と予防医療の徹底、普及に努め、元気で長生きのま

地域の絆を育み 地域の連携とにぎわいの創出へ

地域の歴史と伝統文化を大切にし、郷土愛を育むとともに、次の世代にしっかりと継承していけるよう環境づくりに取り組みます。

また、「市民・地域がこれまでもより自発的・主体的に行い、築き上げてこられた人的・歴史的な資源」、一方、「市役所が市民サービスの向上に向けて行っている多岐にわたる事業」、それぞれの

様々な活動について相互に理解・協力を深め、市民の皆様と市役所との信頼関係を一層高めてまいりたいと考えております。

このようなもと、公民協働によるまちづくりをさらに進め、自分たちのまちは自分たちで良くしようとの機運を一層高め、世代間交流を充実し、地域のつながりを創り出してまいります。

都市再生 災害に強く住みやすいまちへ

密集市街地の解消に向け、住宅市街地総合整備事業を推進し、また、府内で最も公園面積が少ない現状を改善して良質な緑を増やすなど、市民が安全・安心を実感できる環境づくりに努めるとともに、大阪府営住宅を本市へ移管すべく協議することとし、その資源を活かした住みやすいまちづくりをめざしてまいります。

行政として、スピード感を重要視しつつも、10年、20年先の未来を見据えた、中長期的な戦略を持ちながら、これまで申し上げた政策を複合的に推進することで、まちのイメージを一新させ、門真の魅力アップにつなげてまいりたいと考えております。

所信表明の全文は市ホームページ「市長の部屋」に掲載しています。

問合せ 企画課
☎06(69002)51572